

4	「キャリア教育」 (進路指導)	<p>コロナ禍の影響で卒業としての出口を迎える高等部では、企業見学や体験実習、現場実習の計画に大きな影響を受けた。そのような状況でも、ご家庭や企業・施設等のご協力のおかげで概ね計画通りに進めることができた。また、より生活支援が必要な児童生徒に対しては、進路指導担当や校内教育相談担当、学部・学年が連携し、外部機関とも連携したケース会を行うことで、見通しをつけることができた。</p> <p>教員の進路指導をよりイメージできるよう小学部の教員が、中学部・高等部に見学したり、福祉施設「グループホーム」の視察を行うことができた。</p>	<p>高等部進路計画としては従前の計画として進めていたが、やはりコロナ禍の影響もあり、追加実習として年度末に迫られる形となってしまった。小学部、中学部から高等部の連続性として、出口を見据えた指導として、課題を抱える生徒に対しての早い段階から出口を見据えた支援ということで、校内教育相談支援と進路指導、外部機関を交えたケース会を実施することで教育計画に生かすことができた。</p> <p>小学部の複数名の教員が日本本校(中学部、高等部)を体験することで「キャリア教育」の視点から経験を積むことができた。</p>	<p>コロナ禍ということもあり、地域の中でどう学校運営をしていくのが課題である。現在も地域に支えられ、地元企業様からも様々なご厚意をいただき、一部交流活動も行えて入るが、今後、学校運営協議会(コミュニティースクール)の視点をどう取り入れていくのか検討を要する。学区が市内半分ということもあり、校内組織を立ち上げるなどにも必要か？</p>
5	地域支援 (センター的機能)	<p>地域における特別支援に関するセンター的機能の役割として、市内の特別支援学校とも連携し、市内小中学校の特別支援学級に計画的に巡回訪問、及び要請に応じて学校を訪問し課題解決のために必要な助言を行った。</p>	<p>市内小中学校、特別支援学級に計画訪問114件、要請訪問34件の対応を行った。校数、回数ともに増加傾向にある。障害程度が重度な児童生徒への指導支援のため、専門職との同行訪問も実施した。支援級の対象児童生徒への指導助言のほか、支援学級全体の運営、体制について助言を行った。2名体制であったが、訪問数、要請相談に偏りがあった。通常の学級からの相談や研修依頼が増えている。</p>	<p>障害の重度化に伴う専門職との連携は継続していくことが必要である。また、通常学級における“発達障害”・“学習障害”への対応を含めてその対応は教育委員会とも連携し、次年度に向けて方向性を確認することができている。</p> <p>専門職の派遣方法について、具体的な方法と仕組みを確認することが必要と思われる。</p>
6	保護者との連携	<p>「個別の指導計画」について本人・保護者と協働で作成していく。</p> <p>保護者との連携は、コロナ禍の影響もあるが、授業参観・保護者会、「学校へ行こう週間」等保護者と情報共有できるようガイドラインに照らして、感染防止対策を行ったうえで可能な限り実施していく。</p> <p>日常の保護者との情報共有方法として「連絡帳」でのやり取りの工夫をしていく。</p>	<p>保護者会、個別面談等は感染防止対策を実施したうえで行うことができた。「個別の指導計画」は面談時に共有しながら話を進めるが当日配布でなく、事前に読み込み確認したいというご意見も見られた。</p> <p>各行事の保護者参観については、入れ替え制や時間を定めることで実施することができた。「授業参観」についても廊下からの参観ではあったが、感染防止対策の上実施することができた。</p>	<p>保護者会・保護者学習会・「学校へ行こう週間」(授業参観)については感染拡大防止のガイドラインに照らし合わせながら、必要に応じて実施方法を考えていく。PTA活動についても「新しい活動様式」を検討し、役員等保護者の負担にならないようにする。</p> <p>「連絡帳」のあり方については、日常、教員が児童生徒対応をしながら記入するため、記入内容が制限されたり、時間も確保できずに負担となっている。</p>
7	「安全指導」 (コロナ感染対策を含めて)	<p>児童生徒の安全や健康に関する緊急時の対応マニュアルの確認等は研修により行う。</p> <p>教育活動については、「市立学校における教育活動ガイドライン」に基づき通常の教育活動を行っていく。</p> <p>高等部3年の修学旅行については、9月実施予定を12月実施に変更した。</p>	<p>「安全対策」に対しては、定期的な研修会等での確認を行っている。日常的に必要でないものは薄れていくので定期的な確認は必要と感じる。</p> <p>教育活動については、概ね通常通り計画したが、令和元年、2年度に実施しなかった行事等(水泳指導等)については、引継ぎがなかったため再確認しながらの実施となった。</p>	<p>アレルギー対応において、研修会での確認はしているが、ヒューマンエラーによるヒヤリハット報告事例が起きてしまった。事後検証を行い再確認した。</p> <p>他県での防犯事件事例から、外部からの侵入者に対する防犯意識が弱まっている(施設や訪問者に対するの確認等)再確認が必要と感じている。</p>

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<p>学校教育推進会議が開催できず、客観的な評価をいただくことができなかった。</p> <p>保護者へのアンケートを実施することで学校教育目標・今年度の重点取り組み項目を評価させていただいた。PTA活動も縮小されたため、評価を共有する場面が難しかったが、役員会・運営委員会で報告・評価をいただくことができた。</p>	<p>本年度は、コロナ禍ということではありながらも、概ね通常の学校運営を進めることができた。但し、令和2年・3年とコロナ禍の影響で実施できなかった教育活動や行事を行うにあたり、教職員の異動による引継ぎや授業や行事の安全面の配慮など継続的な取り組みが途絶えたので、再開の難しさも浮き彫りとなる場面もあった。体育での水泳の授業では、初めて水泳の授業を経験(安全面での指導・配慮等)する教員もいたため、事前の研修に時間を要した。各行事でも同様の様子が見られた。</p> <p>次年度に向けては、状況を的確に判断しながら学校運営を進めていく必要があるため、O(情報収集・観察)・O(状況判断)・D(意思決定)・A(実行)ループの視点を持って、児童生徒の自分らしい自立と社会参加を目指した学校運営を進めたい。</p>